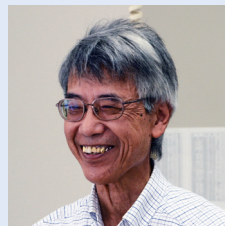


「三重おもちゃの病院連絡会」

菰野町「おもちゃ診療所」代表
「三重おもちゃの病院連絡会」会長
かとう けんいちろう
加藤 健一郎さん



■お問い合わせ
TEL 059-393-3370
代表 加藤 健一郎

「三重おもちゃの病院連絡会」

平成10年、桑名郡長島町（現桑名市長島町）で、三重県で最初の「おもちゃ病院」が開設。その活動は県内全体に広がり、平成13年にボランティア団体として登録。平成20年4月には、各地の団体の連携を目的として「三重おもちゃの病院連絡会」を設立しました。現在12団体が加入して、活動の輪を広げています。

三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は、県内各地で開設されている「おもちゃ病院」をご紹介します。その中のひとつ、菰野町「おもちゃ診療所」の代表であり、県内の活動拠点をまとめる「三重おもちゃの病院連絡会（以下、連絡会）」の会長も務められる加藤健一郎さんにお話を伺いました。

―三重県には、おもちゃ病院（おもちゃ診療所）がいくつかありますが、どのような活動をされていますか。

加藤：電子回路を使ったおもちゃや木のおもちゃ、ぬいぐるみなど、子どもたちの壊れたおもちゃを無料で修理しています（部品代が必要なこともあります）。活動場所は、それぞれの市町の公共施設など「ドク

ター」と呼ばれるボランティアによつて、月に1回程度開院しています。

―「ドクター」とはどういう方たちですか。

加藤：ボランティアでおもちゃを修理している人たちで、どんなでも「ドクター」になれます。「日本おもちゃ病院協会」の「おもちゃドクター入門講座」を受講した人たちもいます。定年退

職をした、子ども好きの人が多くですね。

―三重県で「おもちゃ病院」が開設された経緯は。

加藤：「名古屋おもちゃ病院 トンカチ」で活動されていた、連絡会初代会長の丸山善顕さんが、自宅のある長島町で始めたのが最初です。丸山さんは、三重県内におもちゃ病院を広められていて、私も彼の講習を受けて「ドクター」になりました。

―加藤さんが、菰野町で「おもちゃ診療所」を始めたのはですね。おもちゃ病院の活動例として、菰野町での取り組みを教えてください。

た、どこかで部品が足りないときに、連絡会が拠点になつて探すこともあります。

―今後の抱負を教えてください。

加藤：私は「日本おもちゃ病院協会」の認定講師もしているのですが、まだおもちゃ病院がない地域の立ち上げに、今まで以上に協力したいと思っています。「ドクター」になるには、特別な技術や資格はいりません。唯一

加藤：菰野町保健福祉センター「けやき」で、毎月第2土曜日の午後に活動しています。現在メンバーは8人。みんな子ども好きで、メンバーが教え合いながらおもちゃを修理しています。定期的な活動のほか、「リユースプロジェクト」を4年前から続けています。これは、町民の皆さんから寄贈してもらったおもちゃを直し、子育て団体や児童保育所に寄贈する活動です。残ったおもちゃは、菰野町の「けやきフェスタ」で100円または200円で販売しています。売上金はボランティア連絡協議会に寄付し、ボランティア活動に活用してもらっています。

の条件が、子どもが好きなことです。おもちゃの修理をとおして、人と人が触れ合うことの喜びを持ち続けてほしいですね。

―ありがとうございます。

世代間の交流をとおして子どもの心を育み、定年後の社会貢献の場でもあるおもちゃ病院。地域のなかで果たす役割は大きいといえるでしょう。



菰野町「おもちゃ診療所」で活動するメンバー



菰野町「おもちゃ診療所」の活動の様子



「けやきフェスタ2017」で修理したおもちゃを販売※



ラジコンなど、修理のための資料も揃えている